

「我が国は17世紀の半ば以降、鎖国政策を行い、日本人の海外渡航、外国人の日本滞在が禁止されました。だが、貴国の商館は長崎の出島に移され、貴國の人々はそこに滞在することを認められました。したがって我が国が19世紀半ば鎖国政策をやめて開国するまで、長崎は貴國を通して欧州へ開かれた我が国唯一の窓でありました」

2014年10月29日の宮中晩餐会で、今上天皇はオランダのヴィレム・アレキサンダー

ー国王とマキシミア

妃に語り掛けまし

た。国王も、松尾芭

蕉が1679年に詠んだ「阿蘭陀

も花に来にけり 馬に鞍くらニオランダ商館の一行も桜の花を見にや

つてきた。さあ馬の背に鞍を置け」

を紹介し、「日本が長らく、小さなオランダという窓を通して、西洋を眺めていたことを思うとき、私は深い感慨を覚えます」と返礼の挨拶あいさつを述べます。

而して、「我々は祖先の残した美しい遺産と苦しみの遺産のその何れをも引き継いでいます。第一

連載  
第9回

さ や カ だ け ど。  
た し か な こ と。

田中康夫

You are the Hope for Tomorrow.

## 「慰安婦問題」の深層 「歴史の光と影」と共に歩いて歩む

次世界大戦で我が国の民間人や兵士が体験したこと我々は忘れません。忘れる事はできません。戦争の傷跡は、今なお、多くの人々の人生に影を落としており、犠牲者の悲しみは今も続いている。捕えられ、労働を強いられ、誇りを傷つけられた記憶が、多くの人々の生活に傷跡を残しました」と続けました。

それに先立ち今上天皇も、「何度も計画され、その都度国内の反対で取りやめとなつたものが遂に実現を見たもので、私どもにとり、忘れ得ぬ御訪問となりました」と1991年にベアトリックス女王と共に賓客として、当時は皇太子の現国王が来日した想い出を語り、「9年後の2000年には貴国の御招待を受け、私どもがオランダを訪問します。に当たり、女王陛下は幾度か貴国の戦争犠牲者と話し合われ、行事はその人々の了解のもと行われました。この時の女王陛下の御努力に、今も深く感謝しております」と語っています。

元々は蘭領東インドとしてオランダの植民地だったインドネシアを1942年に占領し、民間人9万人、軍人4万人のオランダ人を抑留・捕虜とした日本軍の将校が

1944年2月、数十人のオランダ人女性を複数の抑留所から慰安所に強制連行し、軟禁状態で強姦した「スマラン事件」。終戦後の1948年2月、バタビア臨時軍法会議で少佐1人に死刑、11人の將校と慰安所経営の日本人軍属に禁錮刑が言い渡されています。

「白人」を「白い馬」と呼んでいたのが由来で、「白馬事件」とも呼ばれるこの一件に留まりません。オランダは政府所蔵文書に基づき1944年、300人近いオランダ人女性が慰安所で労働させられ、その中の65人は確実に強制売春の対象となつたと調査報告を発表。オランダ下院は第一次安倍内閣時代の2007年に本会議で、日本政府に謝罪と補償を求める決議を全会一致で可決しています。因みにアメリカ下院、カナダ下院、欧州議会も同年、公式謝罪を日本政府に求める決議を本会議で可決して

いるのです。

星霜を経て日韓国交正常化から50年目の昨年12月28日、韓国のソウルで岸田文雄外務大臣と尹炳世外交部長官は会談を行い、共同会

見で「日本政府の表明した措置が着実に実施されるとの前提で」

「この問題が最終的かつ不可逆的に解決されることを確認」と発表しました。「韓国挺身隊問題対策協議会」が要求していた「法的責任」。日本政府が主張していた「道

義的責任」。何れの文言も両者は用いていませんが、その意

思は明々白々です。

外務省HPにアップされた両者の発言から、先ずは岸田外相。「当時の軍の関与の下に、多数の女性の名譽と尊厳を深く傷つけ」「日本政府は責任を痛感」。安倍内閣総理大臣は、日本国の大内閣総理大臣として改めて、(略)心身にわたり、癒しがたい傷を負われた全ての方々に対し、心からおわりと反省の気持ちを表明する

「少女像の撤去が最終的かつ不可逆的に解決される大前提」といった類いの文言は見当たりません。両国が「本問題について互いに非難・批判することは控える」のは、「日本政府の表明した措置が着実に実施されるとの前提」の上、との文脈です。

2001年の誕生日に際しての会見で「私自身としては、桓武天皇の生母が百濟の武寧王の子孫である」と、統日本紀に記されてい

方々の支援を目的とした財團を設立し、「日韓兩政府が協力し、全ての元慰安婦の方々の名譽と尊厳の回復、心の傷の癒やしのための事業を行うこととする」。

而して尹長官は、「日本政府が

在韓国日本大使館前の少女像に対し、公館の安寧・威儀の維持の観点から懸念していることを認知

し、韓国政府としても、可能な対応方向について関連団体との協議を行う等を通じて、適切に解決さ

れるよう努力する」と発言しました。

台となるのは、互いに背負つてきました苦痛を認識することです。両国の多くの国民が和解の実現に向けて双方の間に新しい信頼関係が生まれました」とオランダ国王も答えました。

全力を尽くしてきました。こうして双方の間に新しい信頼関係が生まれました」とオランダ国王も答えました。

とまれ、「自虐史観」を痛罵し、自らは「ツッポン凄いゾ論」の「自虐史観」を唱和する面々が、オランダ、台湾、中国、アメリカをはじめとする世界各国を再び概歎させ、日本を毀損しかねぬ「自爆史観」へと更に陥らぬよう願うや切

ています」と言及した今上天皇は、冒頭の宮中晩餐会で、「長きにわたって培われた両国間の友好関係が、先の戦争によって損なわれたことは、誠に不幸なことであり、私は、誠に不幸なことであります」と最後に述べます。

「日本の国民の皆様もまた、先の大戦において、とりわけ戦闘が苛烈さを増した終戦間近、大変な苦しみを経験されました。和解の士